KYOTO INDUSTRIAL ASSOCIATION

基本理念
－21世紀を担うモノづくり集団－
京都からモノづくりイノベーション

令和８（2026）年４月
No.426

京都工業会ニュース

誌面刷新

CONTENTS

FEATURE

令和８年度事業始動

INTERVIEW

会員企業トップにインタビュー〈44〉
～モノづくりへの想いを聴く～

亀岡電子株式会社
代表取締役社長
川勝　洋 氏

REPORT

モノづくりフォーラム2026
～医工連携の取組～

◀京都大学大学院教授
医学部附属病院
永井医療開発部長

株式会社クロスエフェクト▶
竹田代表取締役

INTERVIEW
会員企業
トップインタビュー

RESEARCH
会員企業の
最新景気動向

REPORT
令和７年度成果報告

INTRODUCTION
技術・経営解決の
手掛かりに

京都府中小企業技術センター

目次

▶事業計画
02　令和８年度重点テーマ
　　新規事業
03　新年度事業計画一覧
04-05 事業参加者募集

▶特集・調査
06　トップインタビュー
07　その課題、相談できます！
08-09 景気動向調査

▶報告・お知らせ
10-11 事業成果報告
12　新入会員紹介、
　　本会関係者の御受賞、
　　KIGだより ほか

令和８年度重点テーマ・新規事業

（令和８年４月１日～令和９年３月31日）

重要テーマ

１．課題解決力の強化とリスキリングを軸とした人材の育成

論理的思考や問題分析、独創的で創造的なアイデアの構築といった課題解決力の強化と、DXやIoT、生成AIをはじめとする新たな技術の活用により、変化の激しい現代のビジネス環境に適応し効果的に問題を解決できる人材の育成。

２．脱炭素・カーボンニュートラルの取組の強化

TNFDをはじめとする経営を取り巻く「環境」を一層重視し、サプライチェーン全体を見据えた取組の強化と、あらゆる環境課題を俯瞰的に捉えて対応できる環境人材の育成。

３．イノベーションの創出につながるネットワークづくりの強化

大学、研究機関、スタートアップ等との協業によるオープンイノベーションの創出を促進するため、外部の知見や技術を取り入れるネットワーク構築の支援とともに、災害等のリスク対策や創造的活動等に関わる人・モノ・情報をこれまで以上に的確につなげる取組の強化。

新規事業

※詳細決定次第、本会ホームページへの掲載及びメールでお知らせします。（実施時期は変更になる場合があります。）

●経営課題解決シリーズ

・アート思考によるモノづくりの考え方セミナー（２回／年）　実施時期：９月～10月

アート思考は、自らの興味・関心を起点に、既成概念にとらわれず、ゼロからイチを生み出す斬新なコンセプトを創出する思考で近年注目を浴びている。アート思考の概要、取組事例等をミニワークを通じて学ぶ。

・小さく始める「匠技デジタル伝承」推進セミナー（１回／年）　実施時期：11月頃予定

製造現場で蓄積された職人の熟練技術を組織資産へと転換し、業務の属人化を解消するために、デジタルツールを使用した事例紹介や参加企業が自社で取り組める『小さく始めるロードマップ』を学ぶ。

・AIエージェント事例セミナー（１回／年）　実施時期：２月頃予定

業務の目標を理解し自ら計画を立て、さまざまなツールを使い分けながらタスクに取り組む高度な自律型ソフトウェアとして注目を集めるAIエージェントについて、先進企業の取組内容に学ぶ。

●リスキルシリーズ

・生産・開発計画リ・デザインセミナー（業務革新研究会共通）（１回／年）　実施時期：７月頃予定

生産計画は、属人化・複雑化しており、市場変動に対する柔軟な対応が難しい。こうした課題解決のため、需要変動対応し、平準化生産、計画業務の抜本的な改革を目指す。

・外国人材活用研究会（４回／年）　実施時期：９月頃予定

理系人材をはじめとする若手社員や製造現場社員確保のため、①外国人留学生、②海外の現地大学生、③技能実習生をターゲットに、外国人採用にあたっての留意事項、採用活動の進め方、入社後のマネジメント等を研究する。

令和８年度（第59期）事業計画

各事業の実施時期は
こちらからご確認いただけます。➡

★新規事業　◆一部新規　★重点事業

1　会の組織強化と会員相互の交流促進

1）総会、理事会、正副会長会議等の開催 …… 随時
2）委員会活動の推進 …… 随時
3）海外産業視察団の派遣 …… １回／年
4）国内産業視察の実施 …… １回／年
5）京都工業クラブの開催 …… 12回／年
6）蔦の会、白鷺クラブの運営 …… 随時
7）新春交歓会の開催 …… １回／年
8）ゴルフ同好会（KIG）の運営 …… ４回／年
9）広報活動の充実 …… 随時
10）有用な会員サービスの展開 …… 随時
11）ホームページ掲示板機能による情報交換 …… 随時
12）Webを活用した各種事業情報の発信強化 …… 随時

2　経営・業務革新の促進と人材育成

経営課題解決シリーズ　1）～2）

1）大会・フォーラム・セミナー・養成講座・視察・見学会等
　ア．京都TQMフォーラム …… １回／年
　イ．購買管理特別講演会 …… １回／年
★ウ．ISO9001内部監査員養成講座 …… ５回／年
★エ．ISO14001内部監査員養成講座 …… ４回／年
　オ．生産改善工場見学会 …… ４回／年
　カ．2026年版ものづくり白書説明会 …… １回／年
　キ．課題対応型セミナー
　　・エンジニアで無くても解る「モノづくり超基本」勉強会 …… ５回／年
　★・産学連携によるイノベーション推進セミナー …… １回／年
　★・アート思考によるモノづくりの考え方セミナー …… ２回／年
　★・脱炭素化取組支援セミナー …… １回／年
　★・環境経営を推進する人材育成講座 …… ７回／年
　★・PFAS・化学物質対策支援セミナー …… １回／年
　★・小さく始める「匠技デジタル伝承」推進セミナー …… １回／年
　★・ものづくりにおけるデータ活用見学会 …… １回／年
　★・AIエージェント事例セミナー …… １回／年
　　・サイバーセキュリティ対策セミナー …… １回／年
　　・人事評価制度導入・運用支援セミナー（中堅・中小企業向け）…… １回／年
　　・障がい者雇用促進セミナー（中堅・中小企業向け）…… １回／年
　◆・BtoBでも活用できるブランディングセミナー …… １回／年
2）経営管理懇話会の開催（管理者対象）
　◆①．経営企画戦略部門懇話会 …… ７回／年
　　②．R＆D部門懇話会 …… ６回／年
　◆③．購買・資材部門懇話会 …… ６回／年
　◆④．生産部門懇話会 …… ６回／年
　◆⑤．品質保証部門懇話会 …… ６回／年
　　⑥．人事労務部門懇話会 …… ６回／年
　　⑦．労働安全衛生部門懇話会 …… ７回／年
　◆⑧．女性活躍推進部門懇話会 …… ４回／年
　◆⑨．経理部門懇話会 …… ６回／年
　　⑩．監査部門懇話会 …… ６回／年

リスキルシリーズ　3）～5）

3）業務革新研究会の開催（若手社員～中堅実務者対象）
　★①．生産・開発計画リ・デザインセミナー（各研究会共通）…… １回／年
　　②．開発設計革新（VE）研究会 …… 10回／年
　　③．流れづくり（VSM）研究会 …… 10回／年
　　④．購買調達革新研究会 …… 10回／年
　　⑤．生産管理（TOC）研究会 …… 10回／年
　　⑥．品質革新研究会 …… 10回／年
　　⑦．産業工学（IE）研究会 …… 10回／年
　　⑧．生産保全研究会 …… 10回／年
　　⑨．生産現場リーダー力強化研究会 …… 10回／年
4）特定分野研究会等の開催（若手～経営幹部対象）
　　①．知的財産権研究会 …… ９回／年
　　②．テクノロジー＆マネジメント研究会 …… 14回／年
　◆③．情報通信研究会 …… ７回／年
　◆④．DX推進研究会 …… ６回／年
　◆⑤．AI研究会 …… ６回／年
　　⑥．良いモノづくりをする女性のための研究会 …… ４回／年
　★⑦．外国人材活用研究会 …… ４回／年
　　⑧．BCP・危機管理研究会 …… ３回／年
5）京都高等技術・経営学院の運営（若手技術者対象）
　ア．研究科 …… ６～２月　１回／週
　　・電子システム研究科
　　・メカトロニクス研究科　｝各研究科延べ70回
　イ．本科
　　〈技術課程〉
　　・機械設計コース …… 17回／年
　　・機械製図コース …… ５回／年
　　・機械加工技術コース …… ４回／年
　　・特定分野コース
　　◆①．材料技術（トポロジー設計&マテリアルインフォマティクス）講座 …… ４回／年
　　◆②．ライフサイエンス（医工連携）推進講座　４回／年
　　◆③．DX推進・ツール活用講座 …… ３回×２クール／年
　　〈管理課程〉
　　★・生産・開発計画リ・デザインセミナー（再掲）…… １回／年
　　・モノづくりベーシックコース …… ４回／年
　　・FMEA・FTAコース …… ５回／年

3　オープンイノベーション推進による新産業・新事業創出

★1）モノづくりイノベーションネットワーク（MI-Net）の実用化促進加速強化 …… 年間
★2）産学連携によるイノベーション推進セミナー（再掲）…… １回／年
　3）「モノづくりフォーラム2027」…… １回／年
★4）京都知恵産業創造の森との連携 …… 年間
★5）京都ビジネス交流フェアを通じた産学連携事業の拡充 …… １回／年

4　経営グローバル化の推進

　1）海外産業視察団の派遣（再掲）…… １回／年
　2）海外ビジネスセミナーの共同開催 …… １回／年
　3）ジェトロ京都貿易投資情報センターとの連携 …… 随時
　4）海外経済団体との交流 …… 随時
★5）外国人材活用研究会（再掲）…… ４回／年

5　中堅・中小企業の振興

1）中小企業経営者見学会 …… ４回／年
2）中小企業技術幹部交流会 …… ５回／年
3）生産改善工場見学会（再掲）…… ４回／年
4）人事評価制度導入・運用支援セミナー（中堅・中小企業向け）（再掲）…… １回／年
5）障がい者雇用促進セミナー（中堅・中小企業向け）（再掲）…… １回／年

6　地球環境の保全と環境経営の推進

★1）京都環境管理研究会 …… ７回／年
★2）脱炭素化取組支援セミナー（再掲）…… １回／年
★3）ISO14001内部監査員養成講座（再掲）…… ４回／年
★4）環境経営を推進する人材育成講座（再掲）…… ７回／年
★5）PFAS・化学物質対策支援セミナー（再掲）…… １回／年
　6）関西環境管理者交流会 …… １回／年
　7）会員の環境活動に対する支援（モデルフォレスト協会との連携ほか）…… 随時
　8）環境関連３団体、その他外部団体との協働 …… 年間

7　労働安全衛生の推進

　1）安全衛生関連セミナー …… １回／年
　2）労働安全衛生部門懇話会（再掲）…… ７回／年
★3）PFAS・化学物質対策支援セミナー（再掲）…… １回／年
　4）BCP・危機管理研究会（再掲）…… ３回／年

8　地域産業の活性化

　1）国・京都府・京都市等関係行政機関との連携 …… 随時
　2）京都経済団体協議会との協調 …… 随時
　3）府内・外関係経済団体との協調 …… 随時
★4）京都知恵産業創造の森との連携（再掲）…… 年間
　5）環境関連３団体、その他外部団体との協働（再掲）…… 年間
　6）青少年と科学の会への支援及び京のエジソンプログラムの推進 …… 随時
　7）北部地域産業界との連携 …… 随時
　8）要望活動 …… 随時

9　京都工業会館跡地の有効活用

～異業種の風土（手法、仕組み、ものの見方、考え方）に相互に触れ、現場力及び人間力の向上を図る～

令和８年度　業務革新研究会・会員募集

◆**開催目的**　各種手法・ものの見方や考え方を磨き、業務革新を推進する人材の育成を図る

◆**対　　象**　若手社員および管理技術関連部門のリーダー（主任、係長）

◆**会　　場**　京都経済センター６階　京都工業会・会議室（必要に応じオンライン参加も対応可能）

◆**期　　間**　令和８年５月～令和９年２月（計10会合）　13：30～17：00（但し５～７月例会は、10：00～17：00）

◆**運　　営**　①メンバーの目標や課題について、正副主査（その年度の登録メンバーより選出）を中心に企画し、基本を踏まえた実践的な運営を図る。
②メンバー間のギブ＆テイクや専任アドバイザーの助言、ゲスト講演、工場見学、演習などを効果的に実施する。

◆**メリット**　①実践的な内容により、一般のセミナーでは得られない幅広い視野と発想力を養うことができる。
②メンバー間やアドバイザー及びゲスト講師との人的ネットワークが構築できる。

◆**活動形態**　**前期・基本編（５月～９月）→参加目的や実務経験に応じた選択制を採用**
Ａコース：手法や考え方を基礎から学ぶ
Ｂコース：応用実務研究（展開＆定着化）
※コース選択が設定されていない研究会もあります。
後期・実務編（10月～２月）→コース毎の課題の掘り下げ（※必要に応じ見学や実習、大会等を開催します）

◆**年 会 費**　研究会毎に１口　京都工業会　会員企業　**83,600円（76,000円＋税額7,600円）**
（但し、１口につき２名の参加ができますので、極力２名ご登録願います）

◆**お 申 込**　**本会HPからお申込みください。**（https://www.kyokogyo.or.jp/seminar_detail.php?id=672）

《８研究会の主な研究予定項目》

開発設計革新（VE）研究会
～機能研究による付加価値〈開発・設計・生産〉の追求～
- ◆簡易演習によるVE活動の実施手順
- ◆企画、開発設計段階におけるVE活用
- ◆VE手法を用いた企業及び顧客満足度向上
- ◆参加メンバー企業の事例を用いた開発、設計段階のVE実践（付加価値向上）
- ◆先端事例に学ぶVE実践＆リーダー育成方法

流れづくり（VSM）研究会
～モノと情報の流れの連動による生産革新力の強化～
- ◆生産革新に求められる分析力、設計力、実践力
- ◆工場・ラインの情報と流れの連動
- ◆モノと情報の流れにおける付加価値（ムダ取り）
- ◆研究会参加企業の業種に合わせたモデル生産システム構築
- ◆研究会参加企業でのモノと情報の流れづくりの実践

購買調達革新研究会
～購買調達革新によるコスト競争力の強化～
- ◆パートナー企業の集約・評価、指導、育成方法
- ◆あるべきコスト（例：PCS）の求め方と運用及びコスト体系
- ◆先進企業の調達業務から学ぶIoTやDX活用方法
- ◆購買情報収集方法（法規制対応（TSCA、原産国調査、電池指令 等）
- ◆グローバル調達とSCMを組み合わせた新しい調達方式やBCP

生産管理（TOC）研究会
～TOC制約条件理論による生産管理革新～
- ◆生産管理の基礎研究ともの作りにおける問題解決方法
- ◆全体最適TOC活用における事業の継続
- ◆全体最適につながるIT活用事例
- ◆先進企業の訪問や事例紹介に学ぶ生産管理システム
- ◆参加企業における全体最適もの作りの研究（TOC実践演習）

品質革新研究会
～企画、開発段階から最終検査までの品質の造りこみ（魅力品質造り）の強化～
- ◆企画、開発段階での品質の造りこみ
- ◆初期流動管理による生産初期段階の品質向上
- ◆手法活用による工程内不具合及び客先クレーム対応及び各プロセスへのフィードバック
- ◆６σ改善活動、QCサークル活動の研究（ばらつき低減、形骸化防止等）
- ◆未然防止（過去トラ活用、失敗学等）

産業工学（IE）研究会
～IE手法による徹底したムダの排除～
- ◆３Sの導入・定着と効果的な運用方法の事例
- ◆IE手法による効果的な現状分析
- ◆標準作業３点セットによる改善方法
- ◆現場改善実習による作業改善方法の実践研究
- ◆外部企業訪問によるIE事例

生産保全研究会
～生産システムの効率を最大限に高める、自主保全・予知保全と品質保全体制づくり～
- ◆生産システム最大化の個別改善
- ◆オペレーターの自主保全体制づくり
- ◆保全部門の保全体制づくり
- ◆品質保全体制づくり
- ◆先進工場訪問による保全活動の推進事例及び参加企業での実践

生産現場リーダー力強化研究会
～監督者哲学、リーダーシップ養成の場～
- ◆作業の標準化による品質の作りこみ
- ◆改善提案による強い現場作り
- ◆課題解決力強化
- ◆リーダーシップ（部下指導・育成、コーチング）
- ◆参加企業及び外部企業訪問による現場管理・改善事例

令和８年度 京都高等技術・経営学院 研究科 研修生募集

技術革新に対応できる高度な技術者の育成を目的に、約７か月間にわたり大学院修士課程レベルの知識の習得を目指す長期研修プログラム。

大学講師及び産業界の専門家による講義・実習を通じて、基礎力の向上と応用力の強化を図る。

種　類

●電子システム研究科
対　　象：大学（電気・電子・情報系）卒業者または同等の知識能力を有し、実務経験（２～３年）のある方。
主な科目：半導体工学／電子回路／デジタル信号処理／生体医工学／プロセス制御など

●メカトロニクス研究科
対　　象：大学（機械系）卒業者または同等の知識能力を有し、実務経験（２～３年）のある方
主な科目：基礎制御工学／機構学／振動工学／レーザ加工／材料力学／伝熱工学など

●両研究科合同
主な科目：AI／ノイズ対策技術／ナノテクノロジー／流体力学／ロボット応用技術など

期　間

令和８年７月上旬～令和９年１月下旬
講　　義：原則、毎週水曜日13：15～18：35（延べ28日）
実　　習：原則、土曜日（年数回）９：30～16：30
技術見学：11月頃予定

会　場

講　　義：京都工業会　会議室
実　　習：ポリテクセンター京都（長岡京市）
技術見学：調整中

受講料

291,500円／１名（265,000円＋消費税（10％）26,500円）

令和７年度・修了式を開催：３月27日

●第45回　電子システム研究科　　修了生10名（８社）
・皆勤賞（出席率100％）……………………５名
田中　将（㈱島津製作所）　葉室和樹（㈱島津製作所）
柏木康平（㈱ホリゾン）　林　慶一（三菱ロジスネクスト㈱）
山﨑優子（㈱山岡製作所）

・精勤賞（出席率95％以上）………………１名
上野夢月（㈱イシダ）

●第42回　メカトロニクス研究科　　修了生11名（10社）
・皆勤賞（出席率100％）……………………２名
柴田健生（㈱島津製作所）　堀尾泰希（㈱モリタ製作所）

・精勤賞（出席率95％以上）………………４名
奥田真菜（㈱GSユアサ）　山本楓雅（日東精工㈱）
刀根大樹（㈱ホリゾン）　小林丞伽（㈱山岡製作所）

重点事業　令和８年度 環境人材育成講座

今年度もモノづくり企業における環境問題に対応できる人材の育成を目的に、全７回の講座を開催する。

化学物質・廃棄物・公害対策・エネルギーなどの「環境管理」から「ESG経営」に関わる環境配慮対応までを一通り学び、併せて昨年度好評であった廃棄物処理施設の見学やグループ討論を通じた他社交流も行う。

回	日　時	内容（予定）
1	６月３日（水） 14：00～16：30	・環境基本法「制定の背景と概要」 ・化学物質管理「化審法、労働安全衛生法、REACH、PFAS他」
2	７月２日（木） 14：00～16：30	・廃棄物・危険物管理「廃棄物処理法、消防法、WEEE、RoHS他」
3	８月６日（木） 14：00～16：30	・公害対策「水質汚濁防止法、土壌汚染対策法、大気汚染防止法他」
4	10月上旬 ９：00～17：30	・廃棄物処理施設見学 会場：㈱京都環境保全公社 「リサイクル、焼却、埋立処分」
5	11月上旬 14：00～16：30	・カーボンニュートラル 「規制動向、企業の情報開示 他」
6	12月上旬 14：00～16：30	・サーキュラーエコノミー 「規制動向、国際標準化の動き他」
7	１月下旬 14：00～16：30	・ネイチャーポジティブ 「ビジネスとの接点、企業参加の森づくりの意義 他」

※各回とも講義後にグループ討論・意見交換を予定

2/3・17　BCP・危機管理研究会

自然災害や事故、地政学的なリスク、サイバー攻撃等を受けた際の対応に備えるため、BCP（事業継続計画）や危機管理について、２日間にわたって体系的に学んだ。内容及び参加者からの声は次の通り。

〈主な内容〉
①製造業における危機管理（京都府危機管理部）
②事例報告（㈱村田製作所、京セラ㈱）
③サイバー攻撃対策（京都府警サイバー部門）
④経済安全保障（公安調査庁京都公安調査事務所）
⑤ワークショップ（東京海上日動火災保険㈱）

〈参加者からの声（アンケートから抜粋）〉
・他社の具体的な事例が大変参考になった。
・BCPの定期的な見直しとともに事業継続体制の改善は重要だと認識した。
・被災現場で刻々と変化する状況の中、どういった判断が正しいのか、事前にどのような準備が必要なのかを改めて考える機会になった。

なお、今年度も実施の予定で、詳細が決まれば本会ホームページへの掲載とメールでお知らせする。

「安心安全な社会づくりに貢献する」会社を目指して！

亀岡電子株式会社　代表取締役社長　**川勝 洋** 氏

長年培ってきたセンサー技術と改善力で、安心・安全な社会づくりに貢献する亀岡電子㈱の川勝 洋社長にお話を伺いました。

■ 設立と事業の変遷

私の祖父（川勝捨一）が会社勤めを辞めて、1972年に創業しました。当初はケーブルの端を設備などに接続しやすく加工する仕事だったと聞いています。

その後、大手企業との取引が始まり、センサー関係の仕事を頂くようになりました。センサー組立もケーブルの加工プロセスと同じなので出来たのだと思います。父（川勝健吾）の時代にセンサー受託生産がメインとなり、現在はファクトリーオートメーション用や防災関係用のオリジナルセンサーの開発・製造も行っています。さらに２年前からは、今後の需要拡大が見込まれる自動化設備ロボットにも力を入れています。

■ 入社から社長就任まで

29歳で入社した当初、同年代の社員とは業務経験と知識量の違いから全く会話についていけず、知らないことばかりでした。最初は開発部門に配属されたのですが、そこでは電気の知識が必要で、私が大学で学んだ機械工学の知識は役に立ちませんでした。開発部門で７、８年働いて部長になり、製造部門に異動した39歳のときに父が倒れたため、2015年に急遽社長になりました。

■ 当社の強み

当社は加工と組立の技術から始まりましたが、今では設計もできますので、それがお客様に対する付加価値の提供につながっています。センサーメーカーからの組立加工受託の際に製品設計の修正や改善提案も行うと“ぜひやって欲しい”と依頼されることが多いです。

新たに始めた自動化装置関係の事業では、モノづくり現場を知っているので、自動化設備や設備設計による具体的な現場改善の提案が可能です。

■ センサーに関する技術

当社もかつては主要取引先から生産に係る品質と生産性の改善のための指導を受けて、技術力を高めていきました。

現在では自立し、基礎的なIE改善の手法とDXを使って生産性向上や品質改善に取り組んでおり、品質管理が難しい部品の質の安定に力を入れています。今では、取引先から当社製品の品質を高く評価してもらっています。

■ 品質管理

私の入社前からあった品質方針を基に、品質、コスト、納期、サービスを大事にする基本方針を定めましたが、最初はなかなか社員に浸透しませんでした。世間では「心理的安全性」という言葉が流行り、社内でもこの言葉が独り歩きして、上司や先輩が部下や同僚に注意することをためらうようになってしまったのです。例えば、納期に遅れそうになっても「納期厳守」と言えない雰囲気でした。これは看過できず、自ら現場に入って見直し改善を始めました。

その時に分かったことですが、生産ラインの改善はできていたものの、作業をする社員教育が十分ではありませんでした。そこで当社のモノづくりに必要な考え方を「製造の心得」としてまとめ、この心得を守って生産する取組を始めました。すると作業遅れが大幅に改善されただけでなく、品質も大きく改善し不良率が半減しました。

■ DX、生成AIについて

当社の生産工程の中で、データの収集・可視化を進める中で、システムインテグレーターの資格も取りました。高年齢社員の心身への負担を軽減できるよう自動化を図りアシストするコンセプトで、工程の中にアシストオートメーションを組み込んでいるところです。この経験を踏まえて、当社がプログラミングしたアームロボット等を生産ラインに導入してもらう中小企業向けサービスを始めます。

■ 今後の抱負

お客様が安心して取引できる会社であり、社員が安心して働ける会社にしたい。そのために、品質の向上、福利厚生の改良、そして十分な給与保障をしていこうと考えています。この実現に向けて、お客様から必要とされるサービスをもっと生み出していきたいですね。センサーを中心とし、自動化設備のみに止まらず、お客さんが安心して製品化できる製造工程の提案もしていきたいと考えています。

■ PROFILE ■

創　業：昭和47（1972）年　　設　立：昭和56（1981）年
資本金：5,000万円　　社　員：107人
住　所：京都府亀岡市篠町広田１丁目25-5
業　種：自動制御装置、センサーの開発、製造、販売及び受託生産

その課題、相談できます！
―モノづくり企業のための解決の糸口―

はじめてでも安心。中技センは技術のよろず相談所

製品の不具合対応や測定・分析、開発のヒントまで、ものづくりの「困った」を幅広く支援するのが京都府中小企業技術センター（中技セン）です。まずは無料の技術相談を行い、課題に応じて専門担当が伴走しながら、試験・分析、機器利用、研究会や連携先の案内など、次の一手につながる支援をご案内します。中技センは京都府が設置する公設試験研究機関として、京都リサーチパーク内の本所のほか、中丹・けいはんなの各支援室と連携し、府内全域からの相談に対応しています。さらに、経営支援の公益財団法人京都産業21とも連携し、技術と経営の両面からワンストップ支援を提供しています。

京都府中小企業技術センター

設立：昭和17年（前身組織）、KRPには平成元年から設置

住所：［本所］京都市下京区中堂寺南町134
（七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内）
［中丹技術支援室］
綾部市青野町西馬場下33-1（北部産業創造センター内）
［けいはんな分室］
木津川市木津川台9丁目6/相楽郡精華町精華台7丁目5
関西文化学術研究都市（京都府 精華・西木津地区）
（けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）内）

お問い合わせ先：
電　話：075-315-8635
（企画連携課）
メール：kikaku@kptc.jp

▶KRP東地区の京都府産業支援センターに（本所）があり、200機種を超える試験検査機器を保有しています。

使える支援、使いやすい流れ

◆入口はかんたん

まずは無料の技術相談で課題を共有し、内容を整理したうえで、解決に向けた方向性を確認します。電話・メールでのご相談は平日８時30分から17時15分まで受け付けており、必要に応じて現地訪問やオンラインでの打合せにも対応します。

◆できること

課題に応じて、依頼試験や機器貸付など具体的な支援内容を提案し、申込みから実施まで伴走します。依頼試験では中技セン職員が測定・分析を実施し、機器貸付では、約200機種を利用企業自ら操作できます。取得したデータは持ち帰りも可能です。さらに、共同研究や受託研究にも対応しています。

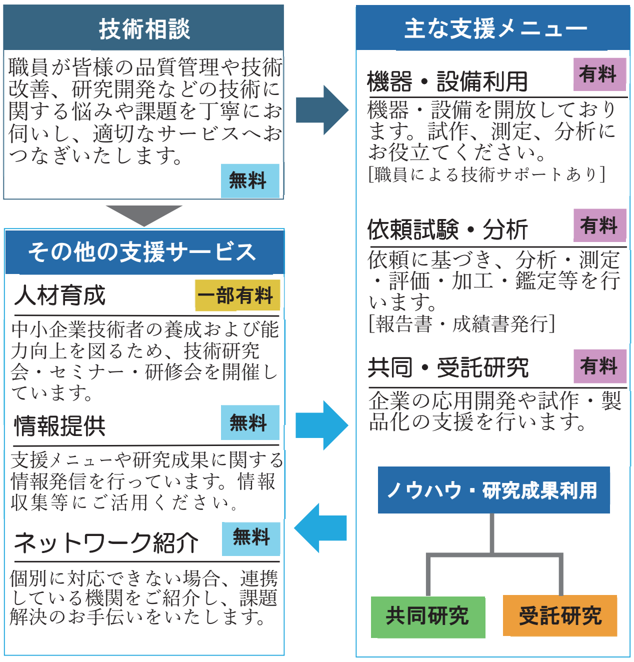
◆対応技術分野

電気通信、食品バイオ、表面構造、設計計測、材料評価、化学分析、デザイン情報など、幅広い技術分野に対応しています。

◆費用面

技術相談は無料です。機器貸付や試験は料金表に基づき　実施しており、具体的な金額はHPで公開しています。府内中小企業には減額制度があり、支払いはキャッシュレスにも対応しています。

■中技センの支援内容



利用の先にある成果のイメージ

実際にご利用いただき「成果」につながった事例をご紹介します。

・微細な汚れの原因を特定し、製品品質の安心を担保

製品表面の外観異常を中技センが解析し、セルロース由来の付着物と特定、品質への影響なしを確認した上で、知見を品質管理に反映しつつ、EV向け部材の展開強化へつなげています。

［業種：ゴム・プラスチック部品製造］

・産学連携による半導体薄膜塗工技術の開発

産学交流会から大学との技術開発へと発展。前駆体の高純度化により高品質な半導体薄膜の塗工技術を確立し、事業連携や商談面にも成果が波及しています。　［業種：機能性塗装製品製造］

・初めての自社雑貨ブランドの立ち上げ

受注加工からの自社ブランド化に挑戦。中技センが商品開発に参画し、展示会出展まで伴走し、製品化、販路開拓の足がかりを築きました。

［業種：金属部品製造］

まずは無料の技術相談から、「次の一手」を一緒に考えませんか。利用方法や支援事例の詳細はHPに掲載しています。電話・メールでのご相談も随時受け付けていますので、どうぞお気軽にご相談ください。

中技セン

本会会員対象

令和７(2025)年度 景気動向等に関する会員意見調査結果について

調査の概要　**調査期間**：令和７（2025）年12月19日～令和８（2026）年２月６日
調査対象：会員企業 トップ324社　回答数126社（回答率38.9％）

回答会社内訳

〈規模別〉資本金	
2,500万円未満	33社（26.2%）
2,500万円以上5,000万円未満	23社（18.3%）
5,000万円以上１億円未満	27社（21.4%）
１億円以上10億円未満	18社（14.3%）
10億円以上	25社（19.8%）

〈業種別〉			
金　属	26社（20.6%）	印　刷	２社（1.6%）
電　機	19社（15.1%）	建　設	７社（5.6%）
機　械	26社（20.6%）	食　品	４社（3.2%）
化　学	９社（7.1%）	金　融	２社（1.6%）
繊　維	３社（2.4%）	その他	28社（22.2%）

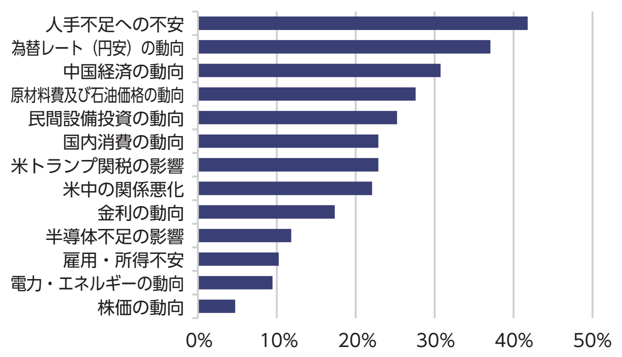
※各回答の母数は有効回答のみ（無回答を除く）とする。

全般的な景気動向について

1 当面の景気動向：「ほぼ現状で推移」が65.1％（昨年76.4％）で１位となり、２位は「徐々に拡大基調になる」28.6％で昨年から18.0ポイント増加した一方、３位の「徐々に悪化する」は5.6％で昨年から6.6ポイント減少した。「拡大基調になる」は0.8％とごく少数で「更に悪化する」はなく、昨年同期と比べ拡大傾向にある。

2 景気拡大はいつ頃本格化するか：（景気が拡大や現状推移と回答した方（94.5％）の結果）「８年10～12月」28.2％が１位、２位は「令和８年４～６月」22.7％、３位は「８年７～９月」20.0％。一方、「令和９年以降」も21.8％あるが、「令和８年中」が78.2％を占め、今年中に景気拡大が本格化するとの予測が大半を占めている。

3 景気の先行き懸念材料：昨年５位の「人手不足への不安」が42.1％で１位、続いて「為替レート（円安）の動向」37.3％が２位、「中国経済の動向」31.0％が３位、「原材料費及び石油価格の動向」27.8％、「民間設備投資の動向」25.4％が続いている。

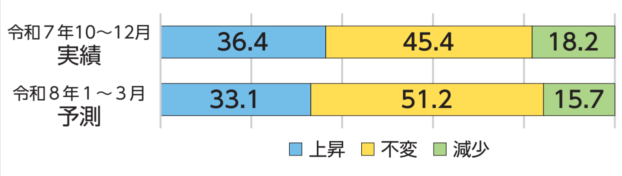


【図１】「景気の先行き懸念材料」（上位13件）

4 円相場の今後の予想：１位に「150円前後」と「155円前後」が同率の38.2％で76.4％を占め、次いで３位「145円前後」9.8％、４位「160円前後」5.7％を合わせると、９割以上が150円台をはさむ±10円以内の予想となった。昨年も150円前後が最多で、140円から155円に集中し円安がやや進行している。望ましいレートは「140円前後」20.3％、「130円前後」17.9％、「120円以下」13.8％と続き、昨年より一層円安となっている。

企業活動について

1 業況：令和７年10月～12月では、「不変」が45.4％、「上昇」が36.4％で合わせて81.8％を占め、昨年同様、改善傾向にある。一方、令和８年１月～３月予想については、「不変」が51.2％で１位、２位の「上昇」が33.1％となる一方、３位の「下降」が15.7％で昨年度から8.1ポイント減少し、全体としてはやや上向き傾向にある。



【図２】「自社業況」

2 生産・売上高：10～12月は１位「増加」が41.0％、２位には「不変」（昨年１位）33.6％、３位「減少」が25.4％となった。しかし１～３月予想では、１位は「不変」41.8％で「増加」を3.3ポイント上回った。

3 在庫：10～12月は「適正」が76.1％で１位を維持、次いで「過剰」18.8％で昨年から3.9ポイント増加し、「不足」は5.1％だった。１～３月予想でも「適正」が77.1％で１位、次いで「過剰」16.1％、「不足」6.8％となった。

4 収益：10～12月は「不変」が42.1％、次いで「好転」が昨年から5.8ポイント増加して37.2％、「悪化」が9.1ポイント減少して20.7％となり、好転の兆しがやや拡がった。１～３月予想では１位は「不変」50.8％で変わらず、２位「好転」32.0％、３位「悪化」17.2％で、好転は継続する予想となった。

5 資金繰り：10～12月は「普通」が73.6％、「楽」が17.4％、「苦」が9.1％で昨年同様改善傾向にある。１～３月予想では「普通」が74.6％で１位、「楽」が15.6％、「苦」が9.8％で改善が続く予想となった。

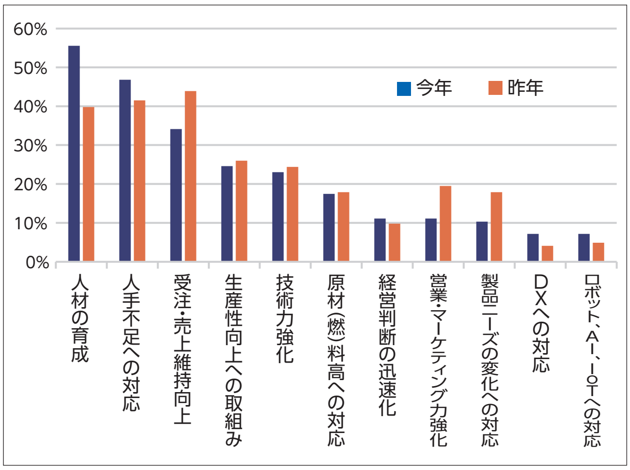
6 設備機器：10～12月は「適正」が81.4％、「過剰」が17.8％（昨年8.3％）、「不足」が0.8％（昨年9.9％）で、不足が解消され過剰が増加した。１～３月予想でも「適正」が81.4％、「過剰」が16.1％、「不足」が2.5％と同じ傾向になった。

7 **雇用状況：**10～12月は事務・間接部門で「不足」7.3%（昨年23.3%）。営業部門で「不足」9.0%（昨年38.7%）、技術・開発で「不足」14.9%（昨年58.3%）、現業部門でも「不足」15.0%（昨年43.0）と、いずれも大きく減少した。

8 **設備投資計画：**「本年度と同規模」が39.0%（昨年42.6%）で1位、次いで「本年度に比べ増額する」が30.9%（昨年28.7%）、「本年度と比べ減額する」と「実施するかどうか未定」が同率の13.0と、昨年と同じ傾向になった。

9 **設備投資計画の内容：**1位は昨年同様「更新投資」52.9%だったが対昨年14.1ポイント減少、2位「能力増強投資」48.0%（昨年39.8%）、3位「DX・情報化投資」44.1%（昨年31.1%）、次いで「維持・補修投資」35.3%、「技術革新・研究開発投資」26.5%、「新事業・新製品開発投資」25.5%が続き、積極的な設備投資計画が進んでいる。

10 **当面の経営課題：**「人材の育成」55.6%が1位（昨年3位）、「人手不足への対応」が46.8%（昨年41.5%）で2位となり、昨年1位の「受注・売上維持向上」は9.8ポイント下がって34.1%で3位となり、近年最も重要な課題として定着していた人材の育成が1位に返り咲いた。次いで、4位「生産性向上への取組」24.6%、5位「技術力強化」23.0%、6位「原材（燃）料高への対応」17.5%が続いた。



【図3】「当面の経営課題（上位11件）」

女性が活躍できる職場づくり、両立支援のための取組

1 **女性のキャリア形成：**「女性社員の職域拡大」が92.1%で突出した1位となった。次いで、2位「リーダー（管理職）育成研修」38.6%、3位「女性社員の管理職・役員への登用」28.9%、「女性社員のネットワーク形成（研修や座談会など）」26.3%が続いた（複数回答有）。

2 **仕事と家庭の両立支援：**1位に「育児短時間勤務（期間延長含む）」72.4%、僅差で2位に「男性育休取得促進（育児参加への支援）」71.6%となり、3位「柔軟な働き方・休み方（テレワーク、フレックス、時間単位年休など）」61.2%であり、過半数の企業が取り組んでいた。

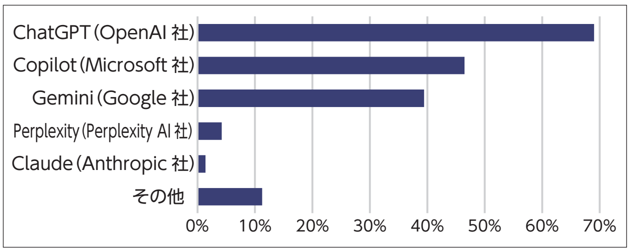
3 **自社は様々な境遇の子供達の子育て環境が整った企業」と過半数の社員が感じているか：**「感じていると思う」が71.1%、「感じていないと思う」28.9%だった。

AIの利活用について

1 **現在のAI利活用状況：**1位は「会社として活用を推進している」が41.3%、2位は「部門や業務を限定して活用している」と「個人で活用していることもある」が同率の16.7%となっており、次いで「方針を明確に定めていない」が23.8%で4位だった。また、「業務への活用は禁止している」が1.6%とわずかではあるがあった。

2 **利用しているAIについて：**「既存のツールを利用」が67.1%で突出した1位、次いで「既存のツールをカスタマイズ」17.8%、「外部発注」9.6%が続いている。

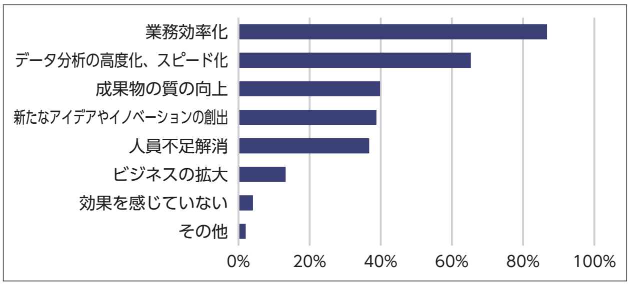
3 **実際に使用しているツール：**1位は「Chat GPT」69.0%、2位「Copilot」46.5%、3位「Gemini」39.4%が続いており、他に企業・業種等に応じたツールが使われている（複数回答有）。



【図4】「使用しているツール」

4 **利用目的：**1位は「資料作成等の補助（文章作成、要約、翻訳など）」86.5%、2位は「情報収集」75.0%、次いで「アイデア出し、シミュレーション」55.2%、「データ分析」53.1%が続いている。

5 **AI利用の効果：**1位の「業務効率化」が86.7%、2位の「データ分析の高度化、スピード化」が65.3%と回答し、また3社に1社以上が「成果物の質の向上」39.8%、「新たなアイデアやイノベーションの創出」38.8%、「人員不足解消」36.7%と効果を認めている。



【図5】「AI利用の効果」

6 **利用にあたっての課題：**1位「セキュリティリスク」59.0%、2位「情報の正確性に不安がある」55.0%、3位「使いこなせない」40.0%となっている。

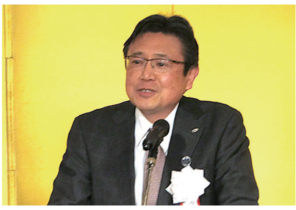
7 **DX・AI人材の充足度：**88.9%が「人材不足」との回答だった。同人材補充の方法としては、1位「社内育成」75.8%、次いで「外部人材導入」15.2%、「専門人材の採用」9.1%であった。

1/23 2026年新春交歓会

会　場：リーガロイヤルホテル京都
参加者：153名

本会の会員相互が和やかに交流し、親睦を深めることを目的とした本交歓会は、今回が33回目となる。

村尾会長から、「新年明けましておめでとうございます。本日、京都工業会の新春交歓会でご挨拶できることを嬉しく思います。昨年は明るい話題の一方、国際情勢は不透明さを増し、迅速な判断と連携強化が求められています。」



開会挨拶
村尾　修　会長

「本日は会員のみの開催で、福引大会もありますのでお楽しみください。皆様のご健勝と各社のご隆盛を祈念いたします。」との挨拶に続き、瀬川副会長の乾杯発声で賑やかに開宴した。

続いてこの１年に入会された新入会員６社の日本ニューロン㈱、㈱ネクステージ京都事務所、NTTドコモビジネスソリューションズ㈱京都支店、影近設備工業㈱、新菱冷熱工業㈱京滋支店、ティーエムシー㈱の各代表者が登壇され、自社の紹介と挨拶が行われ、大きな拍手で歓迎された。

ハッピーパーソンを目指してジャンケン

その後、会員企業96社から寄贈いただいた景品で、恒例の「福引大会」を行い、締めくくりには恒例のハッピーパーソン選びを行った。

「2026年ハッピーパーソン」は、敗者復活戦で勝ち上がった黒井　剛氏（クロイ電機㈱取締役会長）に決定。村尾会長から記念品が手渡され喜びのスピーチが行われると、会場の参加者から大きな祝福の拍手が送られた。

2026年ハッピーパーソン
黒井　剛　氏

閉会挨拶
廣江　敏朗　副会長

結びに、廣江副会長から、「定期的に訪れているCES視察では、フィジカルAIの進展、BtoB化の加速、中国企業の台頭を強く感じました。製造業にも大きな示唆があります。不透明な時代ですが、皆様と共に挑戦しましょう。ご健勝と各社の発展を祈念いたします。」との閉会挨拶と一本締めが行われ、2026年新春交歓会は、盛況のうちに閉幕した。

京都工業クラブ

第705回　京都工業クラブ　1/19

インドを活かす製造戦略：
今後の日本製造業への影響と対応

神戸大学経済経営研究所　教授／経済経営研究所　副所長　**佐藤　隆広**　氏

インドでは2014年に就任したモディ首相の下で法律や税制など一定の改革が進められてきたが、関税引き上げなど保護主義的政策の強まりもみられる。

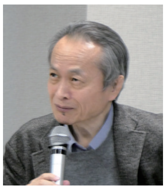
またインド経済は約７%前後の成長を維持しているが、原油価格や国際情勢の影響を受けやすいという特徴がある。

インドは中東・アフリカに近いという地理的利点から、新たな国際サプライチェーンの拠点となる可能性がある。日本企業のインド進出は拡大しているが、インド市場だけでなく将来的にアフリカ市場も視野に入れた長期的な戦略と夢を持つことが今後の成功の鍵である。

第706回　京都工業クラブ　2/25

生成AIと製造業の未来～競争優位をどう築くか～

神奈川大学 情報学部 システム数理学科 教授　**山口　高平**　氏



製造現場では、スマート工場化等の流れの中で生成AIが活用される一方、人と人との関係性や暗黙知の情報共有に対して、従来モデルでは十分に対応できない点が課題である。

近年の生成AIは膨大な知識の学習により推論や創造的支援が可能となり、業務改善や意思決定の場において有力な“相棒”となり得るが、そのためには継続的な試行を重ね活用方法を習熟することが不可欠である。

定型業務をAIに委ね、人は創造的な領域を担うなど、AIと人が協働し補完しあう関係が重要であり、今後、企業の競争力は生成AIの活用力に大きく左右される。

第707回　京都工業クラブ　3/10

㈱村田製作所ムラタ イノベーションミュージアム 訪問

ムラタの近未来の経営ビジョンと
それを実現するためのDX/AIの取組

上席執行役員　経営DX本部 本部長 兼
同本部 経営管理統括部 統括部長　**須知　史行**　氏

村田製作所の基本理念や歩み、ビジョン等を紹介している同ミュージアムを見学。大阪関西万博シグネチャーパビリオンに提供されたふしぎな石ころ“echorb（エコーブ）”の体験も行った。

講演では、DXとAI活用を通じて競争優位の確立を目指す同社の取組が紹介され、参加者からは見学・講演を通じ多岐にわたって、勉強になった等、大変好評であった。

白鷺クラブ活動報告

令和７年度 白鷺クラブ３月例会
京都工業会首脳・廣江副会長との懇談

開催日：令和８年３月３日
会　場：㈱SCREENホールディングス本社
講演者：同社 代表取締役 取締役会長 廣江　敏朗氏
参加者：25名

廣江会長

廣江会長から、入社以来半導体事業に携わってこられた経験を踏まえた同社の取組について講演が行われた。講演後は２班に分かれ、同社の創業から事業化への歩みを紹介している「思考展開ギャラリー」と本社の福利厚生施設を見学した。その後、会場を鷹ヶ峰街道に所在する「しょうざんリゾート」へ移し、廣江会長を囲み参加メンバーとの懇親を深めた。

今回の例会は、業績の作り方など示唆に富んだ内容で、多方面から自社の経営を見直す多くのヒントを得られる会合となった。

講演概要

1．テレビコマーシャル制作の背景
　リクルートの成功率と認知度向上のために、テレビコマーシャル制作を行っている。京都で発祥した企業であること、印刷技術を源流として文化に貢献してきたことをコンセプトに制作した。

2．企業理念
　「思考展開」という創業精神を持ち、80周年を機に「人と技術をつなぎ、未来をひらく」という存在意義を企業理念として策定した。従来の理念体系の重複を解消し、全社で統一した言葉で価値観の共有を図っている。

3．イノベーションの考え方
　イノベーションを生み出すためには、既存の技術や仕組みの境界領域での接触、多様性（特に意識レベルのダイバーシティ）、心理的安全性が必要であり、全社レベルでの対話を数多く行うなど文化改革を進め、新たな社会的価値創出を追求している。

4．イノベーションの三つの壁
　シーズと市場の断絶、事業化、スケール化という三段階の壁があり、それぞれで適切な経営介入と可視化が不可欠である。フェーズごとにゲートを設け、進捗を管理している。

5．ROIC経営の導入
　2020年時点ではPLが黒字でもキャッシュ不足の状況であったため、投資余力を生むためにROICを導入した。営業利益率と投下資本回転率を分解し、現場でコントロール可能なKPIを設定・モニタリングする仕組みを確立した。

6．グローバル連携
　大学・研究機関（NEDO・産総研）、IBMなどと連携し、要素技術→デバイス評価→インテグレーション課題→顧客評価という長期スパンのパイプラインを構築している。

2/6 「モノづくりフォーラム2026」を開催

参加者：78名

７回目となる今回のフォーラムでは、モノづくり企業が培ってきた技術力を活かし、今後の成長が期待される医療機器分野に焦点を当てた。医療機器開発にあたって理解しておくべき基礎事項や、医工連携を成功に導くための医療側の専門的支援の取組について、基調講演および先行企業による事例紹介を行った。

冒頭の村尾修会長の挨拶で、「常に不確実で、迅速な決断と実行が求められる時代では、これまで培ってきた高い技術力と現場力を基盤として、変化にも柔軟に対応する経営判断と、企業間・産学連携を一層強化していく必要がある」と方向性が示された。

基調講演

医療機器開発の基礎と京都大学医学部附属病院における医療機器開発支援の取組

講師：京都大学 医学部附属病院先端医療研究開発機構
医療開発部 部長
大学院医学研究科 橋渡し研究推進学分野　教授
医師・医学博士　**永井　純正**　氏

医療機器のクラス分類や区分などの基礎知識と医療機器開発の考え方、医療機器の承認審査等を担当する医薬品医療機器総合機構（PMDA）の活用の方法、および京都大学医学部附属病院における医学研究科と一体となった医療機器開発支援の取組について説明があった。

特にPMDAでの経験を踏まえた薬機法対応と保険償還を見据えた多くの支援が具体的に解説された。

本支援を活用した、医工連携による高リスク治療機器開発への取組が期待されている。

事例紹介

最先端３Dデジタル技術が拓く未来の診断 ～世界市場を見据えた新しい医療機器開発～

講師：㈱クロスエフェクト
代表取締役　**竹田　正俊**　氏

５年前のモノづくりフォーラム2021で紹介された軟質実物大３D心臓モデル（心臓シミュレーター）について、その後の薬事承認および保険償還の取得に至る経緯や、16年におよぶ取組について説明があった。

異業種からの医療機器開発への挑戦と、リハーサルもやり直しもできない外科手術の現状を打破する臓器モデルの事業化展望は、多くの参加者から共感を得られた。

講演中の質疑に加え、アンケートでも追加質問が寄せられるなど、参加者の関心の高さが伺えた。医療機器開発に関し広範囲な基礎知識を得られ、参加者は真に迫る話が事業化までの覚悟を知る貴重な機会となった。

令和７年度京都府環境保全功労者表彰御受賞

令和７年度新設された個人の部において、本会関係では次の方がご受賞されました。

■ **環境トップランナー部門個人の部**

㈱島津製作所　環境経営統括室
サーキュラーエコノミー推進グループ
グループ長　**三ツ松　昭彦** 氏
（本会環境委員会委員長）

会員各位とともに、心からお祝い申し上げます。

ゴルフ同好会（KIG）だより

令和７年度第４回例会（第252回例会）結果

と　き：令和８年３月25日
ところ：宝塚ゴルフ倶楽部
参加者：25名（内 シニア10名）

優 勝

橘　宏 氏
（（一社）京都工場保健会）

優勝の橘氏（左）

準優勝	山中　眞吾 氏	㈱ジャパンオートパーツ24）
３　位	山田　将宏 氏	（㈱GSクラフト）
BG賞	木下　豊 氏	（㈱エクザム）

宝塚ゴルフ倶楽部にて

新入会員ご紹介

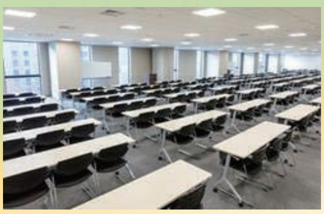
（３月11日、第353回理事会で承認されました。）

正会員

㈱アイエムエー

代表者名	代表取締役 **今泉　憲明**
所在地	〒604-8471 京都市中京区西ノ京中御門東町123-1
連絡先	TEL.075-812-3606　FAX.075-812-3606
取扱品目	半導体製造装置組立及び加工品販売

「京都経済センター」中小企業応援センターフロア
貸会議室のご案内



セミナー・会議・研修会・文化活動等々にご活用ください

貸会議室（3階、4階、6階）

ご予約・空き状況は、
専用予約サイトをご覧ください。
https://keizai-center.kyoto/

●全会議室、無料Wi-Fi完備
●新型プロジェクター、マイクや三連パーテション等、各種備品完備
●平日の当日申込限定で1時間単位利用“ウォークイン使用”可能
●講座や会議後の交流懇親会の開催可能

京都経済センター
〒600-8009
京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地

■アクセス
京都市営地下鉄烏丸線「四条駅」北改札出てすぐ
阪急電車京都線「烏丸駅」26番出口直結
京都市営バス「四条烏丸」徒歩すぐ

公益財団法人 京都産業21

京都工業会ニュース
No.426
発行　令和８（2026）年４月21日
公益社団法人　京都工業会

〒600-8009　京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター６階
TEL.075（353）0061　FAX.075（353）0065
URL：http://www.kyokogyo.or.jp
E-mail：info@kyokogyo.or.jp